

農 業

【概 況】

農家人口

平成12年2月1日現在で実施された2000年世界農林業センサスによると、総農家は、32,255戸で、前回調査（平成7年2月1日現在）からの5年間で3,312戸（9.3%）減少しました。

農家人口は144,324人で、5年間で16,958人（10.5%）減少しています。年齢別みると、65歳以上が5年間に794人（2.1%）増加して、構成比も24.0%から27.3%に上昇しており、高齢化が進んでいます。

販売農家の農業就業人口を男女別にみると、総数は34,255人で5年間で1,080人（3.1%）減少しました。うち、男が685人（4.5%）、女が395人（1.9%）減少したので、構成比は男42.7：女57.3から男42.0：女58.0となりました。

経営耕地面積

2000年世界農林業センサスによると、平成12年2月1日現在の経営耕地面積は1,704,581aで、5年間で175,970a（9.4%）減少しており、農業離れや兼業化、経営者の高齢化などにより縮小している傾向がうかがえます。

農産物生産量（平成14年）

平成14年産水稻の作柄は、作況指数101の「平年並み」となりました。

米の収穫量は、50,300tで前年に比べ200t減少しました。これは、10aあたり収穫量が前年産を上回ったものの、作付面積が減少したためです。

主要野菜の作付面積は2,320haで、前年産に比べ110ha（5%）減少しました。これは、栽培従事者の高齢化と後継者不足等によるものです。

果樹においては、かきの収穫量は27,300tで前年産に比べ1,500t（5%）減少しました。これは春先からの好天により、開花数は多く、受精も順調であったものの、夏期の高湿・寡雨で生育が鈍化し、日焼け果が多く、またカメムシによる虫害の発生が多かったためです。

平成14年の荒茶生産量は2,500tで前年産に比べ290t（10%）減少しました。これは、茶種別にかぶせ茶が前年産に比べ8t（3%）増加したものの、普通せん茶、番茶は前年産に比べそれぞれ60t（4%）、240t（22%）減少したためです。

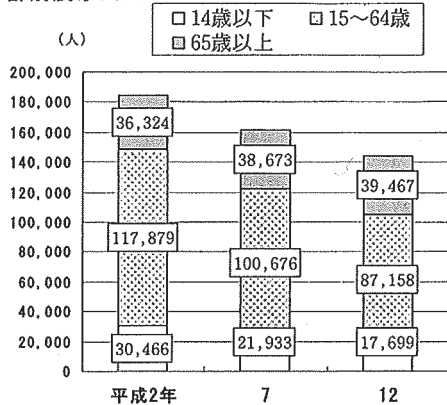
家畜の飼養頭羽数（平成14年度）

畜産粗生産額は、肉用牛部門、鶏部門の粗生産額が減少したこと等から、前年度より3%減の約853千万円となっています。また、家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数はほぼ横這いで推移しています。

販売農家経済（平成14年）

販売農家一戸当たりの農家総所得は約914万円で、前年度に比べ0.7%減少しました。そのうち、農業所得は約85万円（前年比1.4%減）、農外所得は約598万円（前年比0.7%減）、年金・被贈等収入は約230万円（前年比0.5%減）となっています。

年齢別農家人口



資料：農林水産省「2000年世界農林業センサス」

(単位：戸) **専 業 兼 業 別 農 家 数** (各年2月1日現在)

年次別	農家総数	自給的農家	計	販 売 農 家			
				専 業	兼 業		
					計	第 1 種	第 2 種
平成 2 年	39,883	13,690	26,193	2,889	23,304	3,021	20,283
7	35,567	12,370	23,197	2,575	20,622	3,081	17,541
12	32,255	12,206	20,049	2,614	17,435	2,097	15,338

資料：県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

- (注) 1. 農家の範囲は2月1日現在の経営耕地面積が10a以上の世帯、又は調査日前1年間農産物販売金額が15万円以上ある世帯。
 2. 販売農家とは、経営耕地面積が30a以上、又は農産物販売金額が50万円以上ある世帯。
 3. 専業農家とは、世帯員中に兼業従事者が1人もいない農家。兼業農家とは、世帯員中に兼業従事者が1人以上いる農家。
 4. 兼業農家の第1種兼業とは農業所得を主とするもの、第2種兼業とは農業所得を従とするものである。

(単位：戸) **経 営 耕 地 面 積 別 販 売 農 家 数** (各年2月1日現在)

年次別	総 数	0.3 ha 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 1.5	1.5 ha 以上
平成 2 年	26,193	234	9,761	12,132	2,796	1,270
7	23,197	186	8,675	10,540	2,508	1,288
12	20,049	120	7,328	9,198	2,106	1,297

資料：県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

(単位：人) **総 農 家 人 口** (各年2月1日現在)

年次別	世帯員総数	男 女 別		年 齢 別		
		男	女	年 齢 別		
				14歳以下	15~64歳	65歳以上
平成 2 年	184,669	89,462	95,207	30,466	117,879	36,324
7	161,282	77,844	83,438	21,933	100,676	38,673
12	144,324	69,723	74,601	17,699	87,158	39,467

資料：県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

(単位：人、%) **販 売 農 家 農 業 就 業 人 口** (各年2月1日現在)

年次別	総 数	男		女	
		実 数	構 成 比	実 数	構 成 比
平成 2 年	39,882	15,359	38.5	24,523	61.5
7	35,335	15,076	42.7	20,259	57.3
12	34,255	14,391	42.0	19,864	58.0

資料：県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

- (注) 農業就業人口とは、調査日前1年間に「農業のみに従事した世帯員」及び、「農業と兼業に従事したが、農業従事日数の方が多い世帯員」の合計である。

(単位：a) **経 営 耕 地 面 積** (各年2月1日現在)

年次別	総 農 家				販 売 農 家			
	計	田	畑	樹 園 地	計	田	畑	樹 園 地
平成 2 年	2,068,428	1,595,206	193,440	279,782	1,812,599	1,383,018	167,146	272,435
7	1,880,551	1,423,183	176,767	280,601	1,646,595	1,231,386	142,592	272,617
12	1,704,581	1,282,815	156,358	265,408	1,471,297	1,095,153	118,180	257,964

資料：県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

(単位：面積ha、収穫量t) 米麦作付面積及び収穫量

年次別	米				麦			
	子実作付面積	収穫量	産米買入状況		小麦		裸麦	
			予定計画出荷基準数量	集荷実績	子実作付面積	収穫量	子実作付面積	収穫量
平成11年	10,700	53,600	12,474	12,537	40	125	0	0
12	10,400	53,200	12,100	11,829	49	163	0	0
13	10,000	50,500	10,839	10,839	82	167	0	0
14	9,900	50,300	10,812	10,807	115	384	0	0

資料：近畿農政局奈良統計・情報センター「農作物市町村別データ」
農林水産省近畿農政局奈良農政事務所

(単位：面積ha、収穫量t) 主要そ菜の作付面積及び収穫量

年次別	かんしょ		だいこん		さといも		ほくさい		キャベツ		たまねぎ	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
平成11年	120	2,000	171	7,250	149	2,300	138	5,380	142	4,820	81	1,920
12	119	...	163	6,670	131	1,960	128	5,030	120	4,040	73	1,750
13	120	...	158	6,760	119	1,750	122	4,800	118	3,950	72	1,760
14	115	1,820	149	6,050	112	1,620	121	4,650	112	3,550	63	1,510

年次別	なす		トマト		きゅうり		いちご		すいか		ぼれいしょ	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
平成11年	158	11,100	110	6,730	109	3,710	251	5,530	143	3,900	236	2,960
12	143	10,600	100	6,140	98	3,340	233	5,080	129	3,560	221	2,820
13	135	9,800	94	5,660	97	3,340	228	5,030	122	3,320	212	2,660
14	128	8,910	94	5,460	92	3,100	212	4,700	115	2,980	196	2,440

資料：近畿農政局奈良統計・情報センター「農作物市町村別データ」

(単位：面積ha、収穫量t) 主要果実の栽培面積及び収穫量

年次別	みかん		ぶどう		日本なし		もも		かき	
	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量	栽培面積	収穫量
平成11年	75	1,300	81	907	82	2,070	27	...	1,970	28,100
12	72	1,150	81	935	80	2,020	26	...	1,950	27,400
13	73	1,260	79	936	80	2,020	28	...	1,910	28,800
14	72	1,150	78	...	79	...	28	...	1,890	27,300

資料：近畿農政局奈良統計・情報センター「農作物市町村別データ」

荒茶生産量

年次別	栽培農家数 戸	栽培面積 ha	生産量 t				
			合計	玉露	かぶせ茶	普通せん茶	番茶
平成11年	1,550	972	2,940	-	148	1,450	1,330
12	1,200	945	2,910	-	228	1,560	1,120
13	1,060	884	2,790	-	271	1,420	1,090
14	...	843	2,500	-	279	1,360	850

資料：近畿農政局奈良統計・情報センター「農作物市町村別データ」

(注) 単位未満を四捨五入しているため、内訳と合計は一致しないことがある。

農業用機械所有台数(販売農家)

(単位:人)		(各年2月1日現在)					
		農用トラクター等		動力防除機		動力田植機	
年次別	農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数	
平成2年	25,468	31,030	10,205	10,628	20,653	18,140	
7	
12	17,801	24,952	7,763	9,153	15,208	15,325	

年次別		バインダー		自脱型コンバイン		米麦用乾燥機	
		農家数	台数	農家数	台数	農家数	台数
平成2年	9,993	9,400	15,705	13,636	15,320	15,415	
7	
12	4,249	4,282	13,478	13,583	10,993	11,243	

資料: 県統計課「2000年世界農林業センサス結果報告書」

- (注) 1. 農家数・台数とも、数戸で一台中を共有している場合を含む。ただし、平成2年の米麦用乾燥機は個人所有のみの数値。
 2. 農用トラクター等には動力耕うん機を含む。
 3. 動力防除機には乗用型スピードブレーヤを含む。

販売農家経済(1戸当たり)

年次別	経営耕地面積	農業所得+農外所得 ①+②=③		租税公課 諸負担 ④	年金・ 被贈等の 収入 ⑤	可 所 ③-④+ ⑤-⑥	処 分 得 家 計 費 ⑦	農家経済 剰 余 ⑥-⑦	農 家 総 所 得 ③+⑥	
		農業所得 ①	農外所得 ②							
平成11年	106.8	7,095.6	895.9	6,199.7	1,551.4	2,321.7	7,865.9	5,163.2	2,702.7	9,417.3
12	106.0	7,047.2	881.6	6,165.6	1,543.0	2,314.4	7,818.6	5,128.7	2,689.9	9,361.6
13	102.2	6,892.7	865.5	6,027.2	1,545.4	2,314.4	7,661.7	5,099.6	2,562.1	9,207.1
14	102.0	6,837.4	853.4	5,984.0	1,543.8	2,302.6	7,596.2	5,135.1	2,461.1	9,140.0

資料: 近畿農政局奈良統計・情報センター「農業経営統計調査動向統計」

- (注) 「販売農家」とは、経営耕地面積30a以上または農産物販売金額50万円以上の農家。

農地造成及び用途別農地転用面積

年次別	農地造成	農地転用			
		計	住宅用地	鉱工業用地 学校用地	その他の建物、施設用 農道、水路用地、植林
平成11年	—	137.9	30.2	3.6	104.1
12	—	146.6	32.3	0.9	113.4
13	—	117.1	26.8	1.4	88.9
14	—	127.6	36.8	0.4	90.4

資料: 県農業経営課、県耕地課「平成14年土地管理情報収集分析調査」

- (注) 農地造成は年度計で国営農地開発分のみ。

家畜種類別飼養頭羽数

年次別	乳用牛	肉用牛	豚	山羊	綿羊	蜜蜂 (採蜜用)	にわとり	
							採卵鶏	肉用鶏
平成11年度末	5,222	4,863	12,150	64	88	1,597	10,877	1,491
12	5,213	4,393	13,251	67	85	1,565	10,188	1,684
13	5,620	4,069	13,124	58	61	1,565	10,416	1,570
14	5,348	4,178	13,144	55	50	1,540	10,303	1,115

資料: 県畜産課「奈良県家畜きん規模別戸数および飼養頭羽数」

- (注) 1. 肉用牛には肥育用乳用種を含んでいる。
 2. 平成7年度末から肉用鶏羽数に大和肉鶏羽数を加算している。